

# 中国江沢民政権による法輪功人権侵害

法輪功が中国で一九九九年七月残酷に弾圧されてから、修煉を放棄しない人は退職退学させられ、死ぬまで殴打された人も続出している。報道によると、弾圧されて以来、12月20日まで少なくとも既に九十七名の修煉者が死亡した。また四万人が非合法的に拘留され、一万人以上の方が強制労働収容所に送り込まれ、六百人以上の人が最高十八年間の刑を言い渡された。これらの処分はすべて法律にのっとらず行われていた。更に、六百人以上の修煉者は精神病院で薬物治療を余儀なくされており、中には新薬の臨床実験の被験者とされた人もいる。致死された人も相次いで出ていたという。

更に、法輪功修煉者は言論の自由さえ剥奪された。政府に請願しに行った学習者の殆どはすぐ逮捕され、殴打された。迫害の嵐は中国の都市や農村に波及している。中国では「第二次文化大革命」とも呼ばれている。



## 大学女子講師 殴打され死亡

趙昕、女性、32歳、北京工商大学の教師です。2000年6月19日の夜、北京の紫竹院公園でただ法輪功を練習するだけで、警官に海淀区の拘置所に連行されました。拘留されていた間に、酷く殴打され、頸椎の第4、第5と第6節が折れて、命が危篤状態に陥っていた六ヶ月後、亡くなった。

## 大学教授は虐待され人事不省になった



朱航、女、大連市理工大学の人文社会科学部の助教授。彼女が外で法輪功を煉功したというだけで、連行されて留置所であらゆる苦難を受け、非人道的な取り扱いを受けた。彼女は「地牢」という刑具をかけられ、トイレにも行くことも許されず、また食事するには他の修煉者の手を借りなくてはできないので、他の人に面倒をかけたたくなく、断食することにした。結局警官に虐待されて人事不省になり、9月17日に大連市第二人民病院に送り込まれた。

彼女の左足は大まんじゅうのように浮腫んでいて、普通の人の足の倍以上大きくなり、右足はそんなに浮腫んではいなくても、たくさんの傷が残った。



## 法輪功修煉者が虐待され死亡

五十九歳の陳子秀は今年二月十六日に町を歩いていた時、現地の政府部門に連行され、派出所で拘束されていた。翌日の午後、反法輪功教育講習センターに移された。法輪功の修煉を放棄させるため、当センターの役員はゴム棒、電棒で彼女の足、背中を殴り、刺のある木棒で頭と首を叩いた。二十日早朝、重傷を負った陳子秀は素足で積雪の中を走らせられた。二日間の虐待で彼女の足は酷くうっ血し、髪の毛に膿と血がついていた。彼女は嘔吐し、意識不明になり、無念のうちにこの世を去った。遺体はあざだらけで、歯が折れており、耳が大きく腫れ、青黒い色をしていた。彼女の服、布団と下着に血がいっぱい付いていた。

## 軍隊中佐が法輪功修煉のため精神病院に入れられた



当解放軍中佐趙新立氏は総装備部八九六零五部隊に属しており、継続的に公開して法輪功を修煉するため、今年五月二十九日当局に逮捕され精神病院に送られ、治療を名目に彼を監禁していた。

当精神病院は毎日精神系統に有害な薬物を趙新立に注射し、趙新立の身体が極めて虚弱になった。

今現在中国にて少なくとも六百名以上精神正常の法輪功學員は当局によって強行的に精神病院に拘束され強制的に投薬されている。